

府立思斎支援学校



テーマ：「個別の指導計画」の目標立案・支援の手立て・評価等、書き方についての改善を行う

概要

思斎支援学校では、個別の指導計画の目標設定・支援の手立て・評価等の書き方について改善を行うため、校内に「個別の指導計画タスクフォース」を設け、年2回の校内全体研修を実施しました。第1回校内研修の主題は、「個別の指導計画とは？シラバスとは？～よりよい授業と評価のために～」です。「教育課程と個別の指導計画のつながり」や、「子どもの実態に応じること」について全体で共有を図った後、実際に使用しているシラバスを用いて、児童生徒の個別の指導計画の目標と支援の手立てを考えるワークを行いました。

第2回校内研修の主題は、「観点別学習評価とは？～よりよい目標設定と評価のために～」です。シラバスの評価規準を踏まえ、単元目標を観点別に設定するワークを行いました。ワークの後、指導主事による解説を行い、各教科の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の目標について、学習指導要領の内容に沿えているか確認しました。

実施

スケジュール

Research

5月～7月

研修内容およびスケジュールの検討

シラバス・個別の指導計画についての学習会（タスクフォース内）

Vision

7月23日(火)

第1回校内全体研修

「個別の指導計画とは？シラバスとは？～よりよい授業と評価のために～」

Plan

9月～12月

第2回校内全体研修に向けた準備

三観点による目標設定についての学習会（タスクフォース内）

Do

1月8日(水)

第2回校内全体研修

「観点別学習評価とは？～よりよい目標設定と評価のために～」

Check & Act

1月～

研修成果のまとめ、年間活動報告

全体会①

7月23日(火) 第1回校内全体研修会について

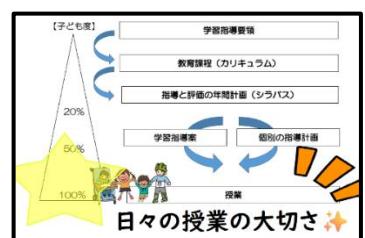
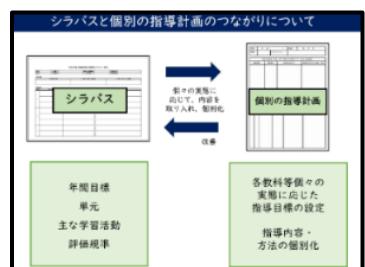
支援教育推進室指導主事より（以下資料より抜粋）

「個別の指導計画とは？シラバスとは？～よりよい授業と評価のために～」

まず、タスクフォースより、全校意識調査「シラバスの活用について」の結果を報告しました。調査結果から、シラバスを活用できている、または活用したいと思っている教員が多いが、評価規準や段階が生徒の実態と合っていない等、悩んでいる教員の姿が報告されました。

そこで、タスクフォースより、学習指導要領とシラバスの基礎的内容について説明し、指導主事より、「教育課程と個別の指導計画のつながり」や「個別の指導計画作成の実際」について解説しました。

ワークでは、実際にシラバスを見ながら、個別の指導計画の目標設定を行いました。



全体会②

1月8日(水)第2回校内全体研修会について

「観点別学習評価とは～よりよい目標設定と評価のために～」

指導主事より、観点別学習状況の評価、個人内評価、授業づくりについて説明をしました。

学校で作成されている「シラバスの評価規準」や

「観点別による目標設定」が学習指導要領の段階や内容に沿っているか、「国語」(小学部1段階)を事例に出して解説を行いました。

ワークでは、国語、算数・数学、図工・美術、保健体育等の教科別にグループをつくり、学習指導要領に掲載されている「目標・内容の一覧」を根拠に、観点別による目標と、目標を達成するための手立てを考えました。各グループが考えた目標設定等について、よい点や改善点等、指導主事より解説を行いました。

シラバスの評価規準	ア：選出されたイラストを見たり教師の音う物を聞いたりして、対応する具体物を歌ることがあります。 イ：イラストや教師の言った物に対応した具体物を、複数の選択の中から選んでいる。
目標	ウ：見立て遊びを楽しみ、意欲的に具体物を歌うとしている。
ア：『ほんたのじどうはんぱいき』の登場人物が欲しいもの聞き、対応する具体物を歌ることができる。	ア：ハカルシニアード読み聞かせをする。欲しいものの名前を言う。 具体物が出てくる場面を絵り読むことで、欲しいのと具体物が違うと、歌うことを理解できるようになる。 イ：タブレット端末に連携する物を操作し、タップでできるようになる。やさしく動作で操作する。 ウ：タブレット端末に連携する。歌文と欲しいものの名前をうつし、具体物が出てる場面を取り扱い見ることで、若狭を歌せるよう。期待感や意欲を高める。
指導方法、指導の手立て	アの内容は思考判断表現。知識技能で求められることはこの單元の場合「(エ)読み聞かせに注目して、・」ではないか。 アは思考判断表現。 イの「選択肢から選ぶ」は、何をもとになるか?国語なら教師の言葉を指示?
③ ⇒ 1段階の評価規準として例えばどんな書き方が適切か。 ア：読み聞かせに注目して聞くことができる。 イ：教師の言葉に対応する具体物を歌ることができる。 など	① 指導要領「目標・内容一覧」に鑑み、「物と物の対応」は算数、国語なら「言葉との対応」。 アの内容は思考判断表現。知識技能で求められることはこの單元の場合「(エ)読み聞かせに注目して、・」ではないか。 アは思考判断表現。 イの「選択肢から選ぶ」は、何をもとになるか?国語なら教師の言葉を指示?

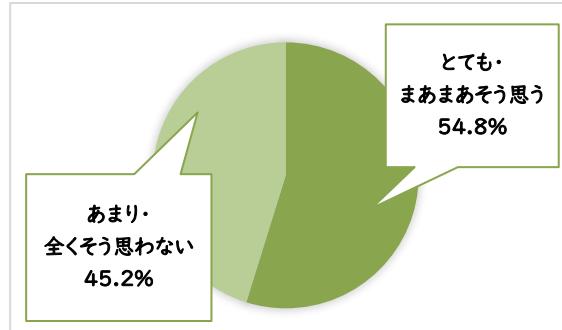
成果

シラバスや個別の指導計画に三観点による目標を設定する場合、学習指導要領に掲載されている「目標・内容の一覧」を根拠にすることで、学習指導要領とシラバス、個別の指導計画の内容を関連付けて作成することができるようになりました。

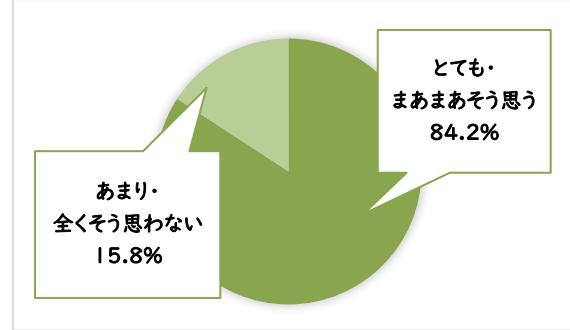
タスクフォースが実施したアンケートでは、三観点の理解度についての質問において、研修実施前と比較し、「よく理解している・理解できた」、「まあまあ理解している・まあまあ理解できた」の指標が+30%以上の伸びになりました。

アンケート結果

① 実施前



② 実施後



(第1回全体研修後アンケートより)

- ・教育課程に基づいてシラバスを作成することが理解できました。
- ・シラバスと個別の指導計画の関係性や位置づけについて理解が深りました。
- ・シラバスを活用して授業を計画したいと思いました。
- ・シラバスで設定した目標や評価規準を、個別の指導計画に反映させることが大事だと感じました。

(第2回全体研修後アンケートより)

- ・実際に計画した指導内容について解説があり、わかりやすかったです。
- ・内容は難しかったですが、研修はとても工夫されていて楽しかったです。
- ・学習指導要領に掲載されている「目標・内容の一覧」を参考に、個別の指導計画の目標が設定できることが分かりました。